



DBKだより

第24号
2020年10月20日
ドン・ボスコ基金



シリアのサレジオン・シスターズの幼稚園で

みこころが天に行われるとおりに、
地にも行われますように
(マタイによる福音書6章10節)

トピック

ボリビア 支援先と倉橋神父の近況／日本 子どもたち・青少年の居場所ハッピーハウス
ペルー共和国・ボリビア コロナ禍で教育を受けられない子どもたち、混乱する教育現場
ローマ ブラジル・マナウスとシリアの子どもたちのためにご支援の感謝／モンゴル 皆様を通して神様のみ手を感じつつ
日本 星美ホームサローネ再建支援／南スーダン共和国 シスター下崎の一時帰国報告

恩人の皆様へ

いつもDBK [ドン・ボスコ基金] にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

世界的なパンデミックをもたらした新型コロナウイルスの感染拡大は、依然として多くの人びとを恐怖と困難にさらしております。そうした中であってもサレジオ家族の中には、ひるむことなく活躍している人たちが世界中のいたるところにいます。

サレジオンの使命は「青少年、特に、より貧しい青少年に対して、神の愛のしるしとなり、伝え手となろうとする」ことです。今年のストレンナ（サレジオ家族年間目標）として掲げられている『誠実な社会人、キリストに倣う者』という目標が、世界のいたるところでサレジオ家族の皆さんの手によって実現しています。

世界には、教育や情報また必要な食糧さえ得られず

に困窮している多くの方がいます。コロナ禍にあってもなお一層困難な状況となっています。そうしたところへ、若者たちを含むサレジオ家族の皆さんが、食料や衛生用品などを届けたり、手指洗いの方法やマスクの作り方を教えたりなど第一線で活躍しています。その背後には、そうした品々を購入したり運んだりするための経費を賄ってくださる心ある寄付者たちがいます。そうした方々の支えがあってこそ、第一線に赴いて活躍する人びとの働きも実現できるのです。心ある方々の繋がりと連鎖がこうした数々のよき業を実現していると言えます。

あらためて恩人の皆様に感謝いたします。また重ねて引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2020年10月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

ボリビア 支援先と倉橋神父の近況



元気にサクソフォンを演奏する倉橋神父

サレジオ会ボリビア管区財務 レイナルド・ビリヤソン神父

親愛なる日本の皆様、私たちボリビアの宣教師と倉橋輝信神父へ送ってくださる経済的支援に、心より感謝いたします。日本の皆様からのご支援で倉橋神父が長年たずさわってきた以下の各種事業に使わせていただきました。

①ボリビアのサレジオ会員育成のため、②特に貧しい地域の教育に携わるドン・ボスコ ポピュラースクールのため、③サンタクルス市のドン・ボスコ プロジェクトでさまざまな要因で危険にさらされている青少年を受け入れるため、④サレジオ会員ブルネーリ神父が担当するサンタクルス市のソーシャルワークのため

倉橋神父は現在、健康管理のため他の高齢会員たちと一緒にコチャバンバ市にある修道院に住んでいます。ここではサレジオ会のブラザーと看護師が交代で世話をし、医師の検診、掃除、洗濯、食事の世話、服薬管理など、必要なケアを提供しています。倉橋神父はいつも笑顔で元気に過ごしています。

神様の祝福が、支援者の皆様の上に豊かにありますようお祈りいたします。

日本 子どもたち・青少年の居場所 ハッピーハウス



ハッピーハウスで一緒に過ごす子どもたちとボランティアスタッフたち



サレジアン・シスターズ修道女 シスター宮澤直子

ドン・ボスコ基金を通して、私たちの活動にご支援くださる皆様に心から感謝いたします。

VIDES JAPAN (サレジアン・シスターズ国際ボランティアグループ) は、ボランティア活動の一つとして、通称「ハッピーハウス」と呼ばれる“子どもたちや若者たちが共に過ごす居場所づくり”の活動を東京都北区で行っています。

このハッピーハウスには、毎週火曜日と木曜日の夕方になると、地域から小学生や中学生がやってきます。みんな「ただいまー」と言ってやってきますが、その日によって嬉しそうに元気に入ってくる子もいれば、少し沈んだ表情で入ってくる子もいます。その一人ひとりを「おかえりー」と言ってボランティアスタッフが温かく迎えます。子どもたちは何らかの支援が必要な子たちいますが、どの子も喜んでやってきます。

ボランティアの高校生や大学生は勉強を教えたり、遊んだり、そして時には子どもたちもシニアスタッフやシスターたちと一緒に夕食作りをすることもあり、おしゃべりしながら、くつろぎ、家族団らんのようなひとときを過ごします。本当に家族のようで、夕食には仕事を終えた子どもたちのお母さんたちも加わって、一緒に食事をします。互いに悩みを相談したりと、ここに集まるみんなにとって“安心できる居場所、家”になっていると感じます。

このハッピーハウスへの参加と食事提供は、無料で

行っています。参加している子どもたちは継続して来ていますが、この4年間で著しい心身両面の成長を見せています。その喜びを共に分かち合えることがまた私たちの大きな喜びとなっています。

今、新型コロナウイルスの影響でハッピーハウスを開くことができませんが、食料を持って各家庭をまわり、子どもたちの様子を見守っています。早く、再開できることを願っています。

ペルー共和国、ボリビア コロナ禍で教育を 受けられない子どもたち、 混乱する教育現場



イエスのカリタス修道女会宣教女 リマの聖女ローザ準管区 シスター テレジア川端キヌエ

日本の皆様からドン・ボスコ基金を通して「新型コロナウイルスに苦しむ青少年活動のため」寄付金をいただき、皆様からの有難いプレゼントに感謝の祈りを捧げました。

新型コロナウイルスは、ペルーとボリビアでも拡大し続けています。両国とも政治・経済・治安が不安定で、患者を治療する医療設備・技術・専門職員・医薬品などにも限界があります。医療保障が不十分で、貧困のため十分な治療を受けられず多くの方が亡くなっています。ペルーとボリビアは、午後5時から午前5時まで

と土曜日曜は、原則として外出と車の使用が禁じられ、16歳以下と65歳以上の人は平日も終日外出禁止、違反者には厳罰が課せられます。

学校教育は大きな問題となっています。3月中旬からすべての教育機関が閉鎖され、オンライン授業が開始されましたが、設備は不十分、研修や準備もないため、軌道にのるまで時間がかかりました。地方ではインターネット設備・機器が不足しています。ペルーでは、3月末にオンライン授業が合法化され、修道会経営のアントニオ・カヴォリ学園でも規定に即して対応しています。

ボリビア政府は8月2日、幼稚園から高校までの2020年度の全学期を7月31日で終了すると発表しました(通常は11月30日が終業式)。コロナ禍で失業者が増加し、私立学校ではオンライン授業での教育の質を問題にして授業料を滞納するなど、全国で私立学校の閉校の危機が浮上している最中、突然の信じられない出来事でした。園児や生徒たちの教育を受ける権利を阻止したことになり、全国で混乱が生じています。約2千人の学生を抱える修道会経営のカリタス学園も対応に追われています。保護者の理解と協力が得られず、授業料の未納が続くならば、学校存続の危機に陥ります。

ペルーのスラム街にあるマリア・タキ保育園は、4月に保護者と会議を重ね、月謝を60ドルから15ドル程度まで下げましたが、保護者たちは日雇いの職を失い、新型コロナウイルスに感染し、納入される月謝はごくわずかです。治安の悪い地域なので夜警が必要で、教育委員会や保護者との連絡、教員のオンライン授業遂行などのために事務・管理者を雇用し、すでに赤字経営状態です。生徒の両親、祖父母、教職員自身とその家族が新型コロナウイルスに感染し、犠牲者も出ています。

このような苦しい経済状態の中で、幼児から青少年までの教育とキリスト教的養成を続けていくために、日本の皆様からいただいた寄付金は、苦しむ貧しい家庭の生徒を優先し、学費支援にあてさせていただきます。写真の姉弟はとても責任感があり勉強好きです。弟は絵を描く才能があります。母親は出勤できず、経済的に困窮しているため、この家族には授業料や教材などの支援を行います。

皆様の上に、神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

ローマ ブラジル・マナウスと シリアの子どもたちのために ご支援の感謝



サレジアン・シスターズ ローマ本部総財務 シスター・ヴィルマ・タッローネ

DBKドン・ボスコ基金支援者の皆様
親愛なる友人である恩人の皆様
サレジアン・シスターズ総長イヴォンヌ・ランゴアと総
評議会を代表して、皆様の寛大さと様々な現状に対す
る必要に向けた細やかな心遣いに感謝します。

新型コロナウイルスによる影響で困窮している人び
とのためにお贈りいただきました額のご寄付は、ブラ
ジルのマナウスの先住民の中で働いているサレジアン
・シスターズのもとにお届けしました。先住民の方々
は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今、
危険な状況にあります。彼らは病気に対する抵抗力が
ほとんどなく、大変苦しんでいます。薬らしい薬はなく、
シスターや住民は薬草を作り、それに頼ることしかで
きません。

シスターたちは、できるだけ質の良い食べ物を提供
し、子どもや女性の免疫力を強化しようとしています。
重症患者は入院し、シスターたちがケアをしています。
その中で、何人かのシスターたちが感染しました。52
歳のシスターは現在マナウス病院で非常に深刻な状態
にあります。皆様の寛大なご寄付は、アマゾン地域の
これらのコミュニティを助けるために使わせていただき
ます。

シリアのための皆様からのご寄付は、私たちが将

来学校を建て運営するための土地を購入するのに役
立たせていただきます。それは13,500平方メートの
土地です。今は他の人が占有しないように、フェン
スで囲む必要があります。残念ながら、米国によって
2020年6月17日、シリア(およびレバノン) に対して
施行されたシーザー・シリア民間人保護法は、状況と
人道支援を非常に困難にしています。親しい友人を通
してでなければ、そこに住むシスターたちを助けるの
も大変難しい状況です。

最近、シリア、特にダマスカスは新型コロナウイルス
の影響を受け、患者を通して数名のシスターが感染
し、一人のシスターが亡くなりました。アメリカの経済
制裁が激しく、援助も送れない状況です。戦争と経済
的、人道的困難によってトラウマを抱えるこの地の人び
とのためにお祈りください。

あまりにも多くの子どもたちが何年も学校に通っ
ていないのですが、私たちは、教育が子どもや若者の
人格形成を助けると確信しています。彼らが、他の人
の権利を尊重し、異なる人びとに対して寛容に、平和を
築くことができる良心を形成するために、教育こそが
役立つと強く信じています。ですから、多くの困難が
ありますが、私たちサレジアン・シスターズは、シリア
のための学校プロジェクトを支援し続けていかなけれ
ばなりません。

皆様の大きな助けに心から感謝します。皆様の上に
主の豊かな祝福がありますように。感謝のうちに。



モンゴル 皆様を通して神様の み手を感じつつ



旧正月のお祝いに共同体のシスターと共に

サレジアン・シスターズ宣教女 シスター小島華子

皆様お元気でいらっしゃいますか。先日、DBKドン・ボスコ基金より寄付金をモンゴルのために受け取ったという連絡を受けました。本当にありがとうございます。皆さんのお心の中にモンゴルがあることが何よりも支えです。

今、新しい幼稚園の建設のために資金集めを始めたところでした。問題が絶えないモンゴルでの生活ですが、このように必要な時に手を差し伸べてくださる方がいらっしゃるという有難い状況を見ると、本当に神様の愛を感じ、私たちの事業がみ旨に沿っているのだということを確認することができ、喜びと感謝にたえません。恩人の皆様のために共同体の姉妹と共に感謝のお祈りをおささげ致します。

今年の8月24日でモンゴル宣教11周年を迎えました。日本を離れて12年が経ちます。以前の宣教生活に比べれば現在の宣教生活は随分と変化しました。もう二度と故郷に帰ることはないという覚悟で何か月間もの船旅を経て宣教地に到着し、最後の吐息まで神のみ国を宣べ伝え、人びとの魂の救いのために捧げ尽くし、その地の土になる。そんなすばらしい先達のようにはなれませんが、11年目を迎え、毎日新たにいただく命を感謝しながら神様の望まれる宣教女になれるように精進していきたいと思えます。これからもお祈りと応援をよろしくお願いいたします。

日本 星美ホーム サローネ再建支援



星美ホーム老朽改築工事完成予想図

社会福祉法人扶助者聖母会 児童養護施設 星美ホーム 理事長 シスター見城澄枝

このたびはDBKドン・ボスコ基金のご厚意に依りまして、寛大なご寄附をいただきましたことを、心から感謝申し上げます。

いただきました全てを当ホームの子どもたちのため、特にサローネ再建のために使用させていただきます。子どもたちは現在2歳から20歳まで92名の定員になっています。

星美ホームを建て替えるための第一期解体工事が終了し、8月から本格的に星美ホームの改築工事が始まっています。サローネの再建は、この星美ホーム老朽改築工事完成後に着工予定です。現在、予想図を作成中です。

これからも神様がドン・ボスコ基金のお働きのうえに必要なお恵みをお与えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。感謝をこめて

『わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイによる福音書25章40節)

南スーダン共和国 シスター下崎の 一時帰国報告



子どもたちとトウモロコシを収穫するシスター下崎

イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター下崎優子

いつも南スーダン共和国の人びとのために温かいご支援を毎年続けてくださり、心より感謝いたします。皆様がいつも心にかけてくださっていることに、私たちは励まされています。

情勢が不安定な南スーダン共和国

南スーダン共和国は2011年7月にスーダンから分かれて独立しました。大統領と副大統領の勢力争いから2013年、2016年の2度にわたってクーデターが起こり、2016年のクーデターの時は、首都ジュバの大統領官邸で激しい撃ち合いがありました。

この時、夜でしたが、銃を持った人たちが避難民に紛れて私たちの敷地に入り込んで来ました。2013年から、神父様が教会にセキュリティのために雇っていた兵士と撃ち合いになりました。撃ち合いは90分ぐらい続き、私たちは建物の中に入ってじっとしていました。南スーダンはまだ武器が豊富ではないので、弾が無くなると戦闘は収まるのです。

南スーダンの人びとにとっては、世界の政治情勢の外圧により、違う部族同志が一つになるように作られた国だから、内紛は起こるべくして起こっていると思っている人が多いようです。国内で、きちんとした商売をしているのはアラブ系の人が多く、その多くが敬虔なイスラム教徒です。彼等は貧しい人に施しをします。私たちにお金が無い時には、後払いで食料を売ってくれて、本部からお金が届くまで非常に助かりました。

サレジオ家族と一緒に活動

私たちイエスのカリタス修道女会は、2012年に診療所を開設してほしいとの依頼を受けて、韓国、ブラジル、日本から3人のシスターが派遣されて活動することになりました。

私たちはジュバ大司教区の中の小教区に所属し、1平方キロメートルの範囲の中で、サレジオ会、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス修道女会のサレジオ家族と一緒に活動しています。サレジオ会は高校・職業訓練校・教区の教会を、サレジアン・シスターズは幼稚園・小学校・女性のための訓練校を、イエスのカリタス修道女会は診療所・教務センターを運営し、一つの場所で一緒に活動しています。サレジオ会とサレジアン・シスターズは40数年前からスーダンに入っていて、2010年からこの場所で活動しています。

配給を受ける生活から、働いて糧を得る喜びへ

2016年の内戦の時は、夜となく昼となく難民が押し寄せ、初めは学校に収容しましたが、インド人の主任司祭が、空いた場所に一家族ごとのテントを作り、住まわせました。

私たちは彼等をグループに分け、リーダーを決めて食料を配りました。そうしないと、初めは並ぶのですが、足りなくなると思うようで、そのうちすごい奪い合いが起こります。主食のトウモロコシの粉を練っておかゆのようにしたものを、当初は1日に1回食べられるという状況でした。

私たちは、彼らに食べるものをあげるだけでは、現状から抜け出せないと考え、彼らが自立していけるように活動しました。

神父様が鎌を1人に1本ずつ与えて、働かない人にはご飯をあげない、子どもをちゃんと学校に行かせない家には食料を配給しないということにしました。これはとても厳しいことですが、おかげで今はとてもよく働くようになりました。

サレジアン・シスターズはイタリアのプロジェクトと一緒にっており、農業に関する支援をしてもらって、女性たち一人ずつに農地を1区画ずつ与え、そこでできた野菜は自分たちで食べてもよいし、売ってもよいようにしました。水があれば夏野菜は何でも良く育ちます。ナス、キュウリ、ピーマン、オクラ、ニンジン、キャベツ等。サレジアン・シスターズがしっかり指導し、女

性たちも上手になって、本当にきれいな作物ができています。水供給システムを整備できれば、南スーダンの土壌は豊かで、輸出できるほどの作物ができるということです。

今年から3年プロジェクトを始め、まずニワトリをつがいと与えて、玉子からニワトリを増やす予定。来年はヤギをつがいと与える予定です。ヤギを育てられるようになれば、生活できるようになります。今は、皆、希望をもってよく働くようになりました。

学校の状況

学校は、子どもの人数が多いので、午前のクラス、午後のクラスと分けて勉強しています。問題は、きちんと教師の資格をもった先生がいなくて、神父様方が運営しているドン・ボスコの高校を卒業した生徒たちに教えてもらっています。高い給料が払えないので、質のよい教育がなかなかできません。先生たちを育てることが課題で、外国から来た教師に頼らなくてはならないのが実状です。今年からサレジオボランティアグループの人で、ポーランドから技術関係の先生が2人、2年間来てくれていて、アメリカとインドからは英語の先生が2年間来て教えてくれています。サレジオ・シスターズのほうには、イタリアからお母さんたちが3か月間来てくれて、幼稚園の子どもたちの面倒を見てくれています。

サレジオ・シスターズのシスターたちは、昨年から夕方のクラスも始め、村を回って一度も学校へ行ったことがない女の子を集めて授業を始めました。また、職業訓練センターを開いて、料理クラス、裁縫クラス、農作業クラスで、自立に向けての職業訓練を行っています。幼稚園とオラトリオも独自に運営しています。

診療所の状況

イエスのカリタス修道女会は、2013年から韓国とブラジルから1人ずつ看護師シスターが派遣されて、全員で5人の体制で診療所を始めました。医師がいなかったため、日本でいう薬剤師が症状を聞いて、血液検査を行います。シスターにとって、初めは採血が大変でした。なぜなら肌が黒いため血管の位置がよくわからなかったのです。1日100～200人の患者が来ますが、ほとんどマラリアか腸チフスなので、薬が大量に必要で、初めは日本からの支援の半分を薬代に使っていましたが、現在は韓国のサレジオ会の基金を薬代に使えるよ

うになりました。

日本と南スーダン

今、大国の指導者が自国優先主義を取っているせいもあって、国連が手を引き始めています。一方、日本の大使はとてもよく頑張ってくれて、南スーダンの人びとの生活基盤を整えるべく、さまざまな支援を考えてくださっています。

先日、大使自ら私たちの所を見に来てくださり、診療所に血液の検査機器、エイズの検査機器、扇風機を手配してくれることになりました。

以前のクリスマスの時には、日本の自衛隊がボランティアに来てくださり、子どもたちにプレゼントを贈りました。日本の自衛隊は評判がよく、とても感謝されています。日本の自衛隊が作ったものは壊れない、他国が作ったものはすぐ壊れるといえます。日本からの支援物資を運ぶにあたっては、日本の規則が他国に比べ厳格で、自衛隊やJICA国際協力機構など政府機関の運搬手段に便乗することができません。先日ソーラーパネルを500枚寄付して下さる方がいましたが、残念ながら運ぶ手段がありませんでした。

サレジオ学院中学校・高等学校(神奈川県横浜市)の生徒たちは、南スーダンの子どもたちの教育費支援として毎年寄付を送ってくださいます。駅前で募金活動もしてくれています。

南スーダンのこれから

現状は同じ状況を繰り返して、なかなか変わっていきません。何千年と部族中心の暮らし、文化を経てきたものを、短い年月で変えるのは難しいことです。けれど、私たちはとにかく挑戦して、今の若者が育てて国のリーダーになれば少しずつ変わってゆくと期待していますが、3代経ってもまだ無理かもしれないとも言われています。

最後に、日本の歴代サレジオ会管区長に受け継がれ、私たちに確実に届けられるDBKドン・ボスコ基金の皆様からのご支援は大変ありがたく、心からの感謝を申し上げます。



学校で勉強に励む子どもたち

DBK[ドン・ボスコ基金]にご支援くださった皆様

2019年10月1日～2020年8月31日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金]に募金して下さった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

麻生 麗子、足立 光生、安部 恭子、安倍 弘和・隆二、阿部 正子、荒木 由香里、有田 美智子、飯島 美智子、飯沼 武、五十嵐 迪雄、池尾 久美、池谷 仁宏、石崎 真理子、石突 真理子、伊豆田 正之、板井 貴宏、市川 敏子、伊積 幸江、伊積 佳江、伊藤 正高、今村 信之、妹尾 ゆき、入江 詮吉、入江 千鶴子、岩切 真紀、岩田 卓三、植田 良子、薄井 慈恵子、宇田川 晴子、内河 純子、梅木 あゆみ、梅木 廣美、遠藤 昌子、大熊 理津子、岡田 尚彦・久美子、小川 由子、小椋 久光、小澤 令、小野 貞雄、小山田 匡宏、勝井 豊、加藤 恭平、加藤 慎次郎、加藤 依子、川尻 達也、菊池 真理子、木佐貴 節子、岸本 隼人、久保田 洋子、倉澤 伸子、倉科 紀美子、栗本 幸子、黒崎 雅浩、桑野 貴巳子、小島 明希、後藤 雅貴、小林 徹也、権五 紘、坂本 秀子、坂本 広子、坂本 順子、佐々木 恵子、佐藤 朝子、佐藤 香代子、佐藤 節子、佐野 淑子、猿川 禮子、澤 美由紀、椎原 伊三男、品川 満紀、篠塚 五子、柴崎 恵子、渋谷 高史、島本 メリエ、下里 亘、正司 尚子、杉山 信彦、鈴木 ゆかり、住本 恵子、関根 優司、曾根 美香、高木 信子、高島 正人、高野 仁、高橋 廣見、竹村 牧子、竹村 真紀子、竹村 幸生、田崎 桂子・耕平、橘 りつ、多比羅 史子、田村 陽子、辻村 寛行、十河 みゆき、戸村 信子、友村 忠司、鳥居 孝一、中田 文雄、中野 隆正、中林 伸子、中村 妙子、中山 勝義、西方 和夫、西ヶ谷 裕子、西澤 千代子、西出 治彦、野口 幸子、野中 あゆみ、野濱 多美子、野村 美南子、花岡 暉、浜崎 廣光・祥恵、原之園 容子、上田 つや子、日向 育子、平井 隆史、平川 厚子、平松 ケイ子、広川 澄子、福井 潔、福地 直義、藤田 満智子、藤村 栄三郎、藤原 伸子、藤原 礼子、前田 志津子、前田 太、前田 安雄、正岡 武人、松田 宏紀、松田 律子、松本 菜生子、三上 茂、水谷 義晴・とし子、蓑田 純子、宮崎 智子、宮脇 和子、八木下 泰博、山家 信雄、山口 真理子、山下 達男、山下 多鶴子、山本 朋弥、湯口 靖弘、横山 紘元、横山 多津枝、吉川 敦、吉田 紀子、吉武 尚子、吉成 洋子、吉野 篤、和田 位、和田 静、渡部 裕子

【団体】〔敬称略〕

ユニオネ短大同窓会、大分明星幼稚園、大阪星光学院 中1保護者見学会、大森聖マリア幼稚園、カトリック小岩教会福祉部、カトリック小金井教会、カトリックコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会、カトリック西新教会、カトリック東仙台教会海外協力会、カトリック碑文谷教会福祉部、カトリック三河島教会婦人会、カトリック由比が浜教会婦人会、カリタス学園中等高等学校、カリタス学園同窓会、カリタス小学校、関西建物株式会社、コアラ調布 毛原岳、桜の聖母学院幼稚園、サレジオン・シスターズ大分修道院、サレジオン・シスターズ玉造修道院、サレジオン・シスターズ扶助者聖マリア修道院、サレジオン・シスターズ別府修道院、サレジオン・シスターズマンマ・マルゲリタ修道院、サレジオン・シスターズ目黒修道院、サレジオン・シスターズ聖ヨセフ修道院、サレジオン・シスターズ守護の天使修道院、サレジオ学院キルトbee、サレジオ学院幼稚園、シトー会那須の聖母修道院、社会福祉法人 別府光の園職員一同、社会福祉法人カリタスの園 聖ヨゼフ寮、城星学園後援会一同、静岡サレジオ小学校父母の会、星美学園幼稚園、調布教会聖歌隊、調布星美幼稚園、ドン・ボスコ社 店頭

募金箱、碑文谷教会テレ、ボスコワールド代表 松田康子、目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小学校、目黒星美学園同窓会さつき会

【匿名の方】 66件

DBK [ドン・ボスコ基金] へのご支援とお祈りを、今後ともよろしくお願ひいたします。

ドン・ボスコ基金 2019年度収支報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位：円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
星美ホーム	100,850		星美ホーム (FMA)	500,000	
ハッピーハウス	91,044		ハッピーハウス (FMA)	200,000	
Kiitos	22,000		Kiitos	200,000	
日本国内	263,584		ドン・ボスコ オラトリオ (SDB)	200,000	
			多文化共生センター	300,000	
ポリビア (倉橋神父)	764,408		ポリビア SDB	1,000,000	*3
ソロモン	392,102		ソロモン諸島SDB	500,000	*3
			スリランカ SDB	500,000	*3
モンゴル	159,233		モンゴル FMA	1,000,000	*4
シリア	954,813		シリア FMA	1,000,000	*4
南スーダン	1,067,419		南スーダン SCG	1,000,000	*5
東ティモール	85,324	*1			
ベトナム	23,594	*2			
アルゼンチン	4,650	*2			
任意	5,965,643		ブラジル SCG	500,000	*5
			フィリピン 孤児院	300,000	
			サレジオ会総長意向	1,000,000	*3
			サレジオン・シスターズ総長意向	1,000,000	*4
			イエスのカリタス会総長	1,000,000	*5
寄付金 小計	9,894,664		寄付送金 小計	10,200,000	
利息	18		寄付金送金手数料	29,080	
			DBKだより発行(2回発行)	268,783	
			事務関係経費	35,887	
			諸経費 小計	333,750	
前年度繰越金	5,588,759		次年度繰越金	4,949,691	
収入の部 合計	15,483,441		支出の部 合計	15,483,441	

* 収入の部は2019年4月1日から2020年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。
** 支出の部は2020年3月31日までの受入資金を分配して2020年8月31日までに送金したものです。
略号の説明 SDB: サレジオ会、FMA: サレジオン・シスターズ、SCG: イエスのカリタス会 () のものは関係修道会
※1 先方との連絡に時間を要し、2020年9月に送金しております (2020年度の支出として計上)
※2 金額少額でしたので、次年度以降に送金いたします。
※3 サレジオ会関係の国際送金はサレジオ会日本管区本部経由で送金いたしました。
※4 サレジオン・シスターズ関係の国際送金はサレジオン・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。
※5 イエスのカリタス会関係の国際送金はイエスのカリタス会日本管区本部経由で送金いたしました。
印のない寄付先はドン・ボスコ基金口座から直接送金しております。

DBKだより 第24号

2020年10月20日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名: ドン・ボスコ基金
口座番号: 00190-5-292253

●他の金融機関からお振込みの場合
金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキウ) 預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253

*寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(〇チェックマーク)を
ご記入ください。



恩人の皆様と支援先の方々のためにミサを
ささげるDBKスタッフ